

ふるさと小野町会 ふれあい通信

故郷小野町への想い

村上 峰久

(南田原井)



武田のお地蔵様のお供えです。夏井のお供えです。

真向かいで生まれ、昭和三十六年三月下旬に故郷を旅立って早や四十数年。月日の経つのが本当に早いものです。

埼玉は歴史と煎餅の町「草加市」に住んでもう直ぐ三十年です。二人の子供に恵まれ、「平凡ながらも楽しい我が家の毎日です。定期的に送って頂く小野町のたよりが届くと、最初に慶弔欄に目をやってしまう自分に驚きと年齢（ああいやだ）を実感します。

現在も東北人の粘りを發揮(?)して若者に交じり現役を張っています(ガタは来てるけど)。母が健在なのと、妻も同じ小野町出身なので「笑顔と頑張り」の町には年に二回ほど帰郷します。ご飯、味噌汁、野菜、果物どれもこれも日常味わえない美味しさが楽しみです。観光名所千本桜、諏訪様の対の古杉、

便利な高速道路、工業団地やゴルフ場、リカちゃんキャッスル、街中殆ど舗装され、訪れる度に新しい町に生まれ変わっていますよね。そのかわり、だっぺ方言も減ったような気がします(これは残念!)。私の中の自然はかりの原風景とは随分違ってきまして、自分を育んでくれた故郷への感謝と、懐かしさと悔恨の入り交じる深い想いは変わることはないでしょう。

反面、少年時代への郷愁かな?。自分の居場所が毎年削られていくような寂しさも少し感じます。夏井に帰郷するたび、眼の前の風景の中に、過ぎ去った青春と言う宝物を、無意識のうちに心のなかで掘り起こしている自分を感じます。今でも矢大臣山への数度の遠足が懐かしいです。

特別の弁当と果物で膨れたリュックを背負い、クラスの間と湯沢を通って喘ぎながら登ったあの日。山頂からの展望は、それは圧巻でした。遠くまで連なる山脈も、その向うに何があるのか、またその向うにはと想像で胸躍らせた事を憶えています。

私の故郷小野町がいつまでも、美しい自然に囲まれ、笑顔と活き活きと頑張る人たちの優しさが溢れる故郷であるよう、遠くから応援し続けたと思っています。

こんにちは! パトリアです

先月、私は小野中学校の卒業式に出席する機会がありました。これが日本の卒業式を見る3回目だったのに、今年も日本とアメリカの卒業式の違いを強く感じました。

例えば、私の中学校の卒業式は、6月に屋外のグラウンドで行いました。卒業生の両親、祖父母、兄弟、親戚などがたくさん出席しましたが、在校生は出席しませんでした。私達の学校には制服がありませんでしたので、男子はネクタイで、女子はドレスかスカートでおしゃれをしました。私達は卒業式の練習を一回もしませんでした。ただ、名前を呼ばれた時、普通にステージを上がり卒業証書をもらうだけでした。もし日本の生徒がアメリカの卒業式を見ると、混乱していて、不真面目に感じると思います。しかし、私は、アメリカの卒業式の喜びにあふれたお祝いの気持ちが好きです。

アメリカの卒業生は、寂しさより高校へ進む楽しみの気持ちの方が強いと思います。お別れの言葉や励ましの言葉などは、中学校の思い出よりも将来の期待などについて話します。私は卒業したとき、嬉しさ、楽しさの気持ちでいっぱいでした。「終わり」よりも「始まり」でした。

小野中学校で先生方は、卒業式を「最後の授業」と卒業生によく言っていました。その言葉を聞いて、私はアメリカと日本の卒業式の違いを強く感じました。アメリカ人は、卒業式を「最後の授業が終わってからの祝い」と考えているのではないかと思いました。しかし、小野中学校の卒業生は、いつもと同じように「最後の授業」でもよく頑張ったと思いました。小野中学校と浮金中学校の今年の卒業生のみなさん、おめでとうございます。

Last month, I saw the junior high school students from Ono Junior High School complete their graduation ceremony. This was the third time for me to see a graduation ceremony in Ono, but I still felt

how different it is from graduations in America.

For example, my graduation from junior high school was in June, and it was held outside on the school grounds. Many parents, grandparents and family members attended the ceremony, but the



小野中学校卒業式から

younger students do not. We didn't have uniforms, so we dressed up; the boys wore ties and the girls wore dresses or skirts. We didn't have any rehearsals before the ceremony, and we just walked normally up to the stage when our names were called. If a Japanese student saw my graduation ceremony it might seem messy and not very serious. I liked my graduation, however, because it felt like a celebration. We did not feel sad about leaving junior high school, but excited about moving on to high school. The speakers spoke more about what we would accomplish in the future than about the memories that we had made. I felt happy and excited during graduation; it was a beginning rather than an end.

I realized the difference in attitudes between American and Japanese graduation ceremonies when I heard some teachers at Ono Junior High School mention graduation as the students' "last class." I think that for Americans, graduation is "the celebration after the last class." However, as always, the Ono Junior High School graduates did their best during their "last class." Congratulations to the students from Ono Junior High School, Ukigane Junior High School, and all of this year's graduates.